

玄海原発の再稼働と安全協定について

市長「今の時点では再稼働に賛成できない」

玄海原発の三十キロ圏内に市民の三分の一が住む平戸市。山崎議員には原発からの撤退を望む声が寄せられています。

山崎議員は九電・玄海原発の再稼働と安全協定について、市長の見解を質しました。

市長は「今の時点では玄海原発の再稼働には賛成できない」と答弁しました。



九州電力・玄海原発

期限を決めて、五年から十年以内に原発から撤退すべきです。期限を決めてこそ自然エネルギーへの転換などの努力が真剣に行われます。日本の

自然エネルギー（太陽光、風力など）の潜在力は今ある原発五十基の四十倍です。

政府の「原発は基幹電源として今後も重要」という考えは、日本経団連など財界と同じもので、多くの国民の批判を受けています。

原発からの撤退をすすめるべきですが、玄海原発は存在します。ですから、安全協定は必要です。

山崎議員は佐賀県・玄海町のように「事前了解」を求めるべきだ、と質問しました。

「事前了解」には三つの場合があります。その

一つに「使用済み燃料、放射性廃棄物の輸送計画を立てるとき」とあります。

例えば、平戸市の道路

市長は市民の意見に耳をかたむけるべきです

情報センター（図書館・北部公民館）建設問題

山崎議員は三月議会

で、建設をすすめる前に、五島市のように、建設賛成、反対を含めて市民のさまざまな意見を聞くための住民説明会を開催すべきだ、と質問しました。

残念ながら、住民説明会は行われていません。その一方で、建設予定地の土地調査などが着々とすすめられています。

六月議会では「市の計画でも本体の工事が始まるのは一年九ヶ月後。その間に五島市のような住民



土地調査中の情報センター予定地

説明会をおこなうべきです」と質問しました。

五島市では住民説明会で、多くの市民から疑問が出されたのを受け、図書館建設計画を

や港を使って輸送しようとするとき、佐賀県・玄海町の「事前了解」が必

要だが、平戸市には「事前説明」だけでよい、ということになりました。

市長の答弁は「平戸市の道路や港を使用するということには」現実がない」「あまり、いろいろ

思いつきを並べて非現実的なものを組上にあげるのはいかがなものか」でした。

市民の命やくらし、自然を守るため、黒田市長は松浦市の市長のように「事前了解」を求めて真剣な努力を行うべきです。

白紙に戻しました。

市長は「建設を実施する」という前提に立っての住民説明会をする必要がある」と答弁しました。建設については、さまざまな意見があります。

「市には大きな借金がある。人口も二十年後には半分になる。大きな図書館を建てる必要があるのか」という意見が多くの市民から聞かれます。建設賛成の人の中間にも、市民の意見を聞かなくのまま建設することには

疑問がある、という人がたくさんいます。

市長は市民の意見に耳をかたむけるべきです。

維持費は年間一億円

市は情報センターの維持費を年間五千万円と説明しています。

しかし、六月議会に提出された資料から年間一億円にのぼることが明らかになりました。五千万円には本の購入費（年間二万冊）や増員される職員の人件費が含まれていません。

三月議会、六月議会などで土地調査費の予算案など、情報センター関連議案が可決されました。山崎議員は「事業をすすめる前に市民の意見を聞くべきだ」と反対しました。他の議員は、みなさん賛成でした。

本体の建設費予算案は今後の市議会に提出されます。